

「日々の理科」(第 3517 号) 2024, -3, 24
「青春18切符・日帰り大旅行(6)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

列車で旅行する場合、進行方向の左右どちらに座るかは重要です。東海道本線の熱海方面なら迷わず左側です。相模湾や真鶴岬、大島、初島などがよく見えるからです。御殿場線沼津方面行きなら右側でしょう。富士山が見える可能性が高いからです。



今回の旅行では、御殿場線、東海道本線、身延線などの車窓から「富士山」が見えることを期待していました。しかし思ったよりも天気がよくなく、雲が多かったので、富士山が見えたのは御殿場線車窓からのほんの一瞬だけでした。旅行中に一瞬でも富士が見えると嬉しいものです。真冬の富士のように見えますが、それは山頂付近がけが見えたからで、実際は裾野には雪がなかったようです。



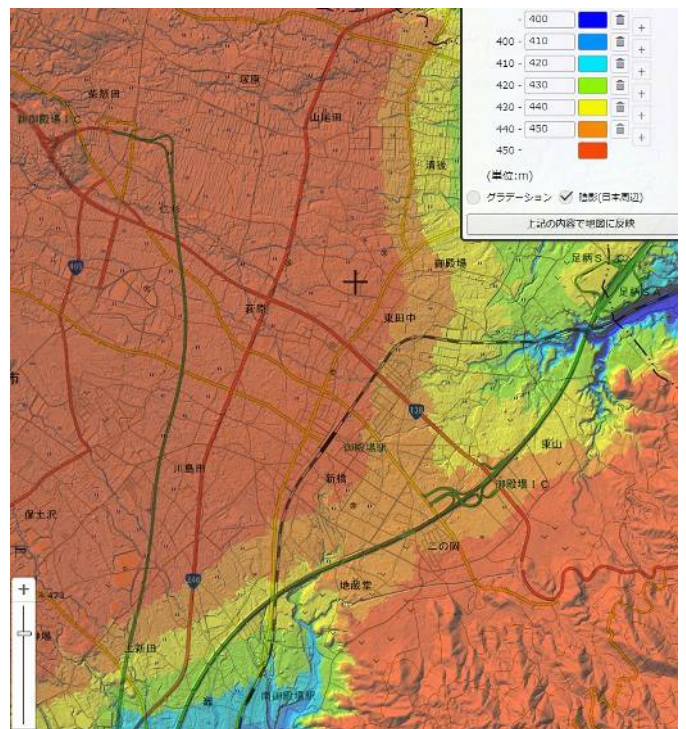
鉄道旅行では、期待していた風景とは別に、思いがけずに美しい車窓に出会うこともよくあります。御殿

場線でも「駿河小山(するがおやま)」という駅(静岡県側の駅)で、見事な桜に出会いました。



丁寧に「金太郎さくら」と札に書いてありました。このあたりの金太郎伝説に因んだ名称でしょう。各駅停車の旅行ならではの嬉しい景観でした。

御殿場線は海拔ほぼ0mの国府津駅から、富士山の裾野の御殿場を通過して、やはり海拔0に近い沼津を結んでいます。最高勾配は約25% (パーミル) で、これは1000m進んで25m登るという勾配です。ヒトや自動車なら「非常にゆるやかな坂」ですが、鉄道は勾配に弱いので、25%でも「急坂」に属します。



私は御殿場線のどの駅が最高標高なのか気になって、地形図を分析して調べてみました。その結果、御殿場駅とわかりました。過去に補助機関車を御殿場で切り離していたことも、非常に納得しました。